

平成21年度～平成23年度用

学校図書「中学校 国語 3」

年間指導計画 作成資料 (学習指導要領改訂に伴う移行措置を含む)

年間指導計画作成資料のご利用にあたって

●移行措置

学習指導要領が改訂され、中学校学習指導要領は、平成24年から完全実施されます。
それに先立ち平成21年度から、可能なものは移行措置として、先行して実施することになりました。
これは、学校図書刊「中学校国語3」に沿って、移行措置を含めた年間指導計画を立てるための資料です。

●「配当授業時数」について

移行期間中も**国語の標準授業時数は変わりません**。
そのためこの資料では、時間数は現行指導要領のままとします。
(授業時数の増加は各学校の工夫のもとで行ってください。)
なお、配当授業時数はその教材を教科書巻末の「学習の目標と評価について」に沿って学習した場合の「目安」となる時間数ですので、各学校・教室の実態を踏まえて、ご活用ください。
この資料は、国語の総時数105時間のうち、「書写」に10時間を当て、年間95時間で計画しています。

- *各単元の「深める・広げる」、各学年巻末の「読書」は選択・補充教材であり、時間数を定めていません。
- *巻末「言語の学習」は通年で随時学習するために、時間数を定めていません。

●凡例

- ・【学びの窓《1》の①】 教科書の「学びの窓」の黒丸《1》の白丸①を指す。
- ・【活動①の《1》】 教科書の言語活動の白文字①の黒丸《1》を指す。
- ・[⇒英小] 観点別に分かれた項目の対応する箇所を指す。
- ・【C(1)ア】 指導要領に示された「内容」の項目を指す。
- ・『 』 指導要領の引用。
- ・「 」 教科書記述の引用。

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 4月初 配当授業時数 3時間	教材名	おたまじゃくしたち四五匹 もう一人の自分に気づく	著者	草野 心平	配当月	4月初				
	単元名	巻頭詩・口絵	文種	詩 解説	配当授業時数	3				
	学習目標	●声に出して繰り返し作品を読んだり役割や分担を決めて音読したりすることによって、身体の中に隠された新しいもう一人の自分を発見する。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a] 作品を繰り返し音読する。 ●[⇒b] 何人かで役割や分担を決めて、作品を群読する。 ●[⇒c] 幾通りかの仕方で作品を音読する中で発見した、新しい自分について述べ合う。								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語 事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統… 事項]
	関心・意欲・態度	●作品をさまざまな形で音読しようとしている。また、その過程で、身体の中に隠されたもう一人の自分に目を向けようとしている。	(1) アイウエ			(1)アウ	(1) アイウ		(1) ウエ (2) ア	(1) イ (イ)
	話す・聞く	●[⇒a] 作品を繰り返し音読している。 ●[⇒b/⇒c] さまざまな形で音読を試み、音読の仕方によって自らの受け止める印象が異なることに気づいている。								
	書く									
	読む									
知識・理解・技能	●音読や朗読を行って、語感を磨いている。									
新指導要領に 対応するための +α	<p>■+α■ 国語の音朗読には、読み取った内容を表現(音朗読)に生かす方向と、この学習のように幾通りかの音朗読によって内省を深めていく方向がある。 朗読から読みへ内省を深めていく点で、【C(1)エ】『文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと』を指導する。</p> <p>授業開きの詩だが、4月の初めに話し合いができる教室なら 「この詩はなぜこのような複数の話者の発語によって書かれているのか？」 「(みず。もやもやもや)の効果は？」 「なぜすべて平仮名表記なのか？」など、表現について批評的に読み合う活動もできる。 その際、【C(1)ウ】『表現の仕方について評価すること』、【C(2)ア】『物語や小説などを読んで批評すること』を指導できる。</p>									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(◎)	ノート(O) プリントやワークシート()	小テスト() 定期考査()	ワークブックなど補助教材() ★実際の音読(◎)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 4月～5月 配当授業時数 3時間	教材名	最初の質問	著者	長田 弘	配当月	4月～5月				
	単元名	1 社会に向けて	文種	随想	配当授業時数	3				
	学習目標	●言葉の働きについて考える。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]問いというものの意味について考え、筆者の中心的な問いが持つ意味を考える。【学びの窓《2》】 ●[⇒b]一つの問いを選び、自分なりに答える。【学びの窓：探究】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●コミュニケーションのあり方について考え、自分にとっての言葉というものを見直し、自覚的な言葉の使い手になろうとしている。								
	話す・聞く	●[⇒b]問いの意味を考え、自分なりの思考を的確に表現している。 ●[⇒a/⇒b]問いの持つ意味や、言葉への信頼とコミュニケーションについて考えている。		(1) アイウエオ	(1) アイウエオ	(1) イウエオ	(1) アイウエ	(1) アイウ	(1) アイエ	(1) イ (イ)
	書く	●[⇒b]問いの意味を考え、自分なりの思考を的確に表現している。								
	読む	●[⇒a/⇒b]問いの持つ意味や、言葉への信頼とコミュニケーションについて考えている。								
知識・理解・技能										
新指導要領に対応するための +α	■+α■ 自分なりに文章の問題提起に対して答え、理由も含めて話し合う。 さらにお互いに感想を述べ合う活動を設定した。 【A(1)ウ】『聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること』を指導する。 【学びの窓：探究】を取り入れる際は、【B(1)イ】『論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと』を指導することができる。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 4月～5月 配当授業時数 3時間	教材名	ケナリも花、サクラも花	著者	鷺沢 萌	配当月	4月～5月				
	单元名	1 社会に向けて	文種	随想	配当授業時数	3				
	学習目標	●コミュニケーションを支える要素について考える。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]スヨンのインタビュー、チョさんのインタビュー、その他のインタビューの違いは、どこから来たのか考え、表に整理する。【学びの窓《1》】 ●[⇒b]コミュニケーションを支える要素について、本文に即して説明し、交流する。【学びの窓《2》】 ●[⇒c]「ケナリも花、サクラも花」という題名の持つ意味について考える。【学びの窓《3》】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●コミュニケーションのあり方について考え、自分にとっての言葉というものを見直し、自覚的な言葉の使い手になろうとしている。								
	話す・聞く	●[⇒b/⇒c]それぞれの考えを積極的に述べ合い、理解し合っている。					(1) アイウエ		(1) アイエ	(1) イ (イ)
	書く				(1) アイウエ オ	(1) イウエオ	(2) ア			
	読む	●[⇒b]コミュニケーションを支える人間関係的な要素について考え、まとめている。 ●[⇒b/⇒c]異文化コミュニケーションを支えるものについて、簡潔に説明している。								
知識・理解・技能	●[⇒b]伝え合いを支える要素について理解している。									
新指導要領に 対応するための +α	<p>■+α■ 国際理解教育にも活用できる教材だが、国語の根本でもある「コミュニケーションを支える要素」について考えることができる。 文章の表面に表れた目に見えるやりとりと、その裏にある心情的なやりとりについて、丁寧かつ意識的に読み、友達と意見を交流する。 【C(1)ア】『文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと』を指導する。</p> <p>また「題名の意味」という読み手によってとらえ方が異なる問題について、活発に意見を交わすように指導したい。 その際、【A(1)エ】『話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、議題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと』を指導する。</p>									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 4月～5月 配当授業時数 5時間	教材名	書く1 論を組み立てる——意見文を書く	言語活動	意見文 ○題材選びカード ○内容作りカード ○意見文	配当月	4月～5月				
	単元名	1 社会に向けて			配当授業時数	5				
	学習目標	●読んだり聞いたりしたことや世の中の出来事について、自分の感想や考えをもとにして論を組み立て意見文を書く。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]新聞に投書された意見文を読んで、意見文を書く上で意識すべきことを確認する。【活動①】 ●[⇒b]題材選びカードに題材を書き出し、その中から自分が書こうとする意見文の題材を選ぶ。【活動②の《1～2》】 ●[⇒c]選んだ題材について、内容作りカードを用いて意見文の構想を練る。【活動②《2》】 ●[⇒d]構想に従って意見文を書く。【活動②《3》】 ●[⇒e]書いた意見文を友達と交換して読み合い、意見や感想を述べ合う。【活動②《4》】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●関心を持つ事柄について自分が抱いた感想や考えをもとに、積極的に論を組み立てて意見文を書こうとしている。	(1) アイウエ	(1) アイウエ オカ	(1) イウエオ	[言語事項]	(1) アイウエ	(1) アイウエ (2) ア	(1) イウ	(1) イ (1)
	話す・聞く									
	書く	●[⇒a]意見文を書く際に書き手として気をつけなければならないことを意識している。 ●[⇒b]自分の日常生活の範囲内で、意見文の題材になりそうな事柄を選択している。 ●[⇒c]内容作りカードを有効に活用して、起承転結の組み立てを持った構想を立てている。 ●[⇒d]自分が立てた構想をもとにして意見文の論述を行っている。 ●[⇒e]相互の共通点と相違点を意識しながら意見を述べ合い、各自の表現に生かしている。								
	読む									
知識・理解・技能										
新指導要領に対応するための +α	■+α■ 意見文を書く前に【活動①】「考えてみよう」で、実際の新聞投稿を読んで、文章の中心・表現・展開・自分ならどうするかをまず話し合う。 次に題材を選び、文章の構成に気をつけて書く。書いた文章を読み合う。 意見文について考える活動では【C(1)ウ】『構成や展開、表現の仕方について評価すること』を、意見文を書く活動では【B(1)ア】題材の選定・文章の構成・論理の展開を指導する。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(◎)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査()	★題材探しカード／内容作りカード(○) ★制作した作品(意見文◎)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 4月～5月 配当授業時数 1時間	教材名	文字を見抜く1 表意文字と表音文字 漢字と語を見抜く練習1 漢字のコラム…まとまりとしての漢字学習1	言語 事項	○世界の文字 ○表音文字 ○表意文字 ○声符のまとまり(疑・支)				配当月	4月～5月	
	単元名	1 社会に向けて						配当授業時数	1	
	学習目標	●表音文字・表意文字について理解する。								
	学習活動 学習内容	●世界の文字には表音文字と表意文字があることを知り、ハングルを例に表音文字について、ピクトグラムを例に表意文字について理解を深める。								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」			新学習指導要領に示された「内容」			
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語 事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統… 事項]
	関心・意欲・態度	●ハングルやピクトグラムに関心を持ち、文字や標識の特徴や役割を深く知ろうとしている。				(2) アイ				(1) イ (イ) ウ (ア)(イ) (2) ア
	話す・聞く									
	書く									
	読む									
知識・理解・技能	●世界にはさまざまな文字のあることを知り、表意文字である漢字、表音文字である仮名の特徴を生かして使いこなす態度を身につけている。									
新指導要領に 対応するための +α	■+α■ 国際理解教育にも利用できるが、「文字」そのものについて学ぶことができる。 また、表意文字としての漢字の意義、便利さなどと共に、表音文字である仮名の機能についても認識させたい。 【伝統…事項(2)ア】書写に関する事項『身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと』なども指導したい。									
想定される評価方法	授業など行動観察(○) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(○)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 4月～5月 配当授業時数 2時間	教材名	文法の学習1 助動詞① 文法を考える1 見れる・見られる	言語事項	○助動詞① ○「ら抜き言葉」とは	配当月	4月～5月				
	単元名	1 社会に向けて	関連	巻末 P270～272	配当授業時数	2				
	学習目標	●助動詞について理解する。								
	学習活動 学習内容	●付属語、付属語の種類、助動詞、助動詞の種類について知り、練習問題で確かめる。 また、いわゆる「ら抜き言葉」について考える。								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●助動詞について知り、その文法上の性質を書く活動、読む活動に生かそうとしている。				(1) カ				(1) イ (ア)
	話す・聞く 書く 読む									第2学年 (1) イ (エ)
	知識・理解・技能	●助動詞についての見方、考え方、知識を身につけている。								
	新指導要領に 対応するための +α	<p>■移行措置■ 新指導要領の第2学年【伝統…事項(1)イ(ウ)】『文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること』 並びに第2学年【伝統…事項(1)イ(エ)】『助詞や助動詞などの働きに注意すること』は、 この教科書では第3学年「中学校国語 3」P281～289(文の成分)とP270～280(付属語)とに置かれている。 (現行指導要領では第2・第3学年の内容が一括して扱われているため。)</p> <p>そのため平成24年までの移行期間中は、第2学年の文法の学習において、 ①「中学校国語 3」P270～280とP281～289を第2学年で先取りして学習する ②「中学校国語 3」P270～280とP281～289を第2学年で先取りして学習し、第3学年で復習する、 ③第2学年では扱わず、教科書どおりに第3学年で学習する、 などの運用が、学校や地域の現場に応じて必要になる。</p> <p>■+α■ 「ら抜き言葉」については文法的な誤りとして指導するだけでなく、なぜそのような言い方ができたのか、考えさせたい。 出版物や広告などの「ら抜き表現」を収集してみることもできる。 この際、【伝統…事項(1)イ(ア)】『時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解する』ことを指導できる。</p>								
想定される評価方法	授業など行動観察(○) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(○)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 4月～5月 配当授業時数 選択・補充	教材名	〈深める・広げる〉 寂しい時代と聴く力	著者	鷲田 清一	配当月	4月～5月				
	単元名	1 社会に向けて	文種	評論	配当授業時数	選択・補充				
	学習目標	●コミュニケーションに必要な基本的態度について考える。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]筆者の言う「寂しい時代」について説明する。【学びの窓《1》】 ●[⇒b]携帯電話の使い方とその心理について、自分たちの生活を見直して意見を述べ合う。【学びの窓《2》】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●コミュニケーションのあり方について考え、自分にとっての言葉というものを見直し、自覚を持った言葉の使い手になろうとしている。	(1) アイウエ		(1) アイウエ オ	(2) イウエオ	(1) アイウエ		(1) アイウエ オ (2) イウ	(1) イ (イ)
	話す・聞く	●[⇒a/b]自分の生活を見直しながら、自分なりに意見を発表し、他の意見を理解しようとしている。								
	書く									
	読む	●[⇒a]「寂しい時代」という筆者の近代観を的確にとらえている。								
知識・理解・技能										
新指導要領に対応するための +α	■+α■ 文章をもとにそこから現代社会について論じ合う活動を設定した。 【A(1)ア】『社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする』、【A(1)ウ】『聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること』などを指導する。 なお、読書の関連として、【学びの窓:振り返り】が設定してある。【C(2)ウ】『自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること』を指導できる。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 6月～7月 配当授業時数 4時間	教材名	握手	著者	井上 ひさし	配当月	6月～7月				
	単元名	2 命の共鳴	文種	小説	配当授業時数	4				
	学習目標	●モチーフにかかわる表現を理解し、それに基づいて主題をとらえる。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]握手・指・手にかかわる表現とその意味について、表に整理する。【学びの窓〈1〉】 ●[⇒b]人差し指を交差させ打ちつけるしぐさの持つ意味を考える。【学びの窓〈2〉】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●表現を支える言葉に対して考えを深め、感覚を磨こうとしている。								
	話す・聞く 書く								(1) アイウエ	(1) イ
	読む	●[⇒a]「べからず集」とも関連させて、象徴的意味を理解し、表現に即してまとめている。 ●[⇒b]「わたし」にとってのしぐさの意味を、心情に即して深く考え、説明している。			(1) アイウエオ	(1) イウエオ			(2) ア	(1) イ (1) イ
	知識・理解・技能	●[⇒a/⇒b]記号としての言葉や象徴的な表現について理解している。								
新指導要領に対応するための +α	■+α■ 新指導要領の『C読むこと』の内容を生かすために、【C(1)ア】『文脈の中における語句の効果的な使い方』『表現上の工夫』、たとえば「握手や指・手にかかわる表現」などを丁寧に読んで、「表現を支える言葉に対して考えを深める」ことを指導をしたい。 また、【C(1)エ】『文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと』を指導する。 なお、読書の関連として、【学びの窓：振り返り】が設定してある。【C(2)ウ】『自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること』を指導できる。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 6月～7月 配当授業時数 4時間	教材名	俳句 俳句十五句	著者	小林 恭二 高浜 虚子 ほか	配当月	6月～7月				
	単元名	2 命の共鳴	文種	俳句解説／俳句	配当授業時数	4				
	学習目標	●俳句を読み味わうことで、俳句のおもしろさを実感する。 ●一句一句から風景や心情などを読み取り、その句のよさに気づく。 ●俳句の表現上の特色、特に季語の働きを理解する。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]「俳句」を読み、みんなで俳句を読み合うことの意義を理解する。【解説：俳句】 ●[⇒b]一句一句から風景や心情などを読み取る。【学びの窓《1》】 ●[⇒c]季語の働きを理解する。【学びの窓《2》】 ●[⇒d]句のよさを説明する文章を書く。【学びの窓《3》】 ●[⇒e]句切れに注意して音読する。【学びの窓《4》】 ●[⇒f]句会を開く。【学びの窓：探究】								
	評価		現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」					
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●[⇒a/⇒b]俳句に興味を持ち、一句一句を読み味わおうとする。 ●[⇒d]俳句のよさを説明する文章を書こうとする。	(1) イ	(1) アイウエオ	(1) アイウエオ	(1) アイウエオ	(1) イウエ	(1) アイウエ	(1) アイウエ	(1) イ
	話す・聞く	●[⇒e]句切れに注意して音読している。								
	書く	●[⇒d]自分の選んだ作品について、その句のよさを的確に説明する文章を書いている。								
	読む	●[⇒b]表現に注意して、作品に表現されている風景や心情を読み取っている。								
知識・理解・技能	●[⇒c]俳句の基礎的な知識(句切れや季語、無季など)を理解し、鑑賞に生かしている。									
新指導要領に対応するための +α	■+α■ 【学びの窓《3》】では「選んだ句のよさを説明する文章を書いて発表し合う」活動が設定されている。 この活動に関連しては、『B書くこと』『B(2)ア』『関心のある事柄について批評する文章を書くこと』を指導できる。 新指導要領の第3学年の【目標(3)】には『文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力』が挙げられている。 『C読むこと』の内容を生かすために「評価」したり「批評」したりする力をつけさせたい。 なお、【学びの窓：探究】「俳句を作って持ち寄り、批評し合おう」の活動を取り入れると、句会や句集の活動になる。 その際、【B(2)イ】『文章などを集め、工夫して編集すること』を指導できる。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△) ★制作した俳句(○)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 6月～7月 配当授業時数 6時間	教材名	話す・聞く1 世界に届ける言葉——パブリック-スピーキング	言語活動	パブリック-スピーキング (意見文から演説へ)	配当月	6月～7月				
	単元名	2 命の共鳴			配当授業時数	6				
	学習目標	●自分の意見を聞き手の心に届けるための条件について考え、話し方を工夫してパブリック-スピーキングを行う。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]聞き手の心に届く話し方の条件について話し合う。【活動①】 ●[⇒b]「論を組み立てる」の学習で書いた意見文をもとにして、パブリック-スピーキングの原稿を書く。【活動②の《1》～《2》】 ●[⇒c]グループ内で原稿を読み合い代表を決めて、グループ代表のパブリック-スピーキングをクラス全体で聞く。【活動②の《3》】 ●[⇒d]パブリック-スピーキングを振り返って、聞き手の心に届けるために気をつけなければならないことをまとめる。【活動②の《4》】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話す・聞く	B書く	C読む	[言語事項]	A話す・聞く	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●聞き手の心に言葉を届けるためにどのようなことが必要なかを意識してパブリック-スピーキングを行い、積極的に考えを伝え合おうとしている。	(1) アイウエ	(1) イウエオ		(1) アイウエオ	(1) アイウエ	(1) アイウエ		(1) イ (ア)(イ)
	話す・聞く	●[⇒b]意見文(書き言葉)とスピーキング(話し言葉)の違いを意識しながら、スピーキング原稿を作成している。 ●[⇒c]互いの共通点や相違点などを聞き分け、それを生かして自分の原稿をよりよいものにしようとしている。 ●[⇒d]自分で話したり友達の話を聞いたりすることを通じて、パブリック-スピーキングで聞き手の心に言葉を届けるためには何に気をつけるべきか意識している。								
	書く	●[⇒b]書き言葉と話し言葉の違いを意識しながら、スピーキング原稿を書いている。								
	読む									
知識・理解・技能	●[⇒b]表現形式、繰り返しの効果、文章の展開などについて、書き言葉と話し言葉の違いを意識している。									
新指導要領に対応するための +α	■+α■ 「書く1」で書いた意見文をもとにしてスピーチ原稿を作り、実際にスピーチをする。 「話し言葉と書き言葉の違い」「敬語」＝【A(1)イ】『場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと』などに注意しながら、指導要領に新しく示された言語活動【A(2)ア】『時間や場の条件に合わせてスピーチをしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること』を指導できる。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(◎)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査()	★スピーチ原稿(◎) ★実際のスピーチ(◎)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 6月～7月 配当授業時数 1時間	教材名	文字を見抜く2 常用漢字表の話 漢字と語を見抜く練習2 漢字のコラム…まとまりとしての漢字学習2	言語事項	○常用漢字表と日頃使わな い常用漢字 ○声符のまとまり(某・叔)		配当月	6月～7月			
	単元名	2 命の共鳴		配当授業時数	1					
	学習目標	●常用漢字表について理解する。								
	学習活動 学習内容	●公文である常用漢字表に、なぜあまり目にする事のない漢字が収められているのかを知り、日本国憲法の条文に見られる語で確かめる。								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●常用漢字表に関心を持ち、収められている漢字を確かめようとしている。								
	話す・聞く 書く 読む					(2) アイ				(1) イ (ア) ウ (ア)(イ)
	知識・理解・技能	●常用漢字表などの公文のあることを知り、必要があれば参照する態度を身につけている。								
	新指導要領に 対応するための +α	■+α■ 「公文である常用漢字表に、なぜあまり目にする事のない漢字が収められているのかを知る」に関連して、【伝統…事項(1)イ(ア)】『時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解』することを指導する。								
想定される評価方法	授業など行動観察(○) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(○)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 6月～7月 配当授業時数 2時間	教材名	文法の学習2 助動詞② 文法を考える2 みたいた・みたいです	言語事項	○助動詞② ○「みたいた」「みたいです」「ちゃう」	配当月	6月～7月				
	単元名	2 命の共鳴	関連	巻末 P272～P275	配当授業時数	2				
	学習目標	●主な助動詞の用法について理解する。								
	学習活動 学習内容	●主な助動詞の用法について知り、練習問題で確かめる。 また、「みたいた・みたいです」「ちゃう」について考える。								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●助動詞、助動詞に準ずる表現について知り、その文法上の性質を書く活動、読む活動に生かそうとしている。								第2学年 (1) イ (I)
	話す・聞く									
	書く					(1) カ				
	読む									
知識・理解・技能	●助動詞、助動詞に準ずる表現についての見方、考え方、知識を身につけている。									
新指導要領に対応するための +α	■移行措置■ 新指導要領の第2学年【伝統…事項(1)イ(ウ)】『文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること』並びに第2学年【伝統…事項(1)イ(エ)】『助詞や助動詞などの働きに注意すること』は、この教科書では第3学年「中学校国語 3」P281～289(文の成分)とP270～280(付属語)とに置かれている。(現行指導要領では第2・第3学年の内容が一括して扱われているため。) そのため平成24年までの移行期間中は、第2学年の文法の学習において、 ①「中学校国語 3」P270～280とP281～289を第2学年で先取りして学習する ②「中学校国語 3」P270～280とP281～289を第2学年で先取りして学習し、第3学年で復習する、 ③第2学年では扱わず、教科書どおりに第3学年で学習する、 などの運用が、学校や地域の現場に応じて必要になる。									
想定される評価方法	授業など行動観察(○) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(○)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 6月～7月 配当授業時数 選択・補充	教材名	〈深める・広げる〉 黒い雨	著者	井伏 鱒二	配当月	6月～7月				
	単元名	2 命の共鳴	文種	小説	配当授業時数	選択・補充				
	学習目標	●表現と主題を巡って自分なりの意見を持ち、交流する。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]個々の人物の経験を整理し、多様な視点から出来事を描く表現方法について理解する。【学びの窓《1》】 ●[⇒b]書かれていない爆心地付近の空白の意味を考え、交流する。【学びの窓《2》】 ●[⇒c]感想を持ち、交流する。【学びの窓《3》】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語 事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統… 事項]
	関心・意欲・態度	●表現を支える言葉に対して考えを深め、感覚を磨こうとしている。								
	話す・聞く	●[⇒c]自分なりの表現分析や主題の理解をもとに、分かりやすく説明している。								
	書く		(1) アイウエ		(1) アイウエ オ	(1) イウエオ	(1) アイウエ		(1) アイウエ オ	(1) イ (イ)
	読む	●[⇒a]個々の人物の経験を要約して整理し、それぞれの表現効果について考えている。 ●[⇒b]書かれていないことによる表現効果を考えている。							(2) アイウ	
知識・理解・技能										
新指導要領に 対応するための +α	■+α■ 【学びの窓：探究】では「図書室等で戦争や原爆についての資料や写真を探し、説明を書く」活動を設定した。 その際、【C(2)イ】『論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと』が指導できる。 なお、読書の関連として、【学びの窓：振り返り】が設定してある。【C(2)ウ】『自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること』を指導できる。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 9月～10月 配当授業時数 4時間	教材名	武蔵野の風景	著者	内山 節	配当月	9月～10月				
	単元名	3 未来への問い	文種	評論	配当授業時数	4				
	学習目標	●筆者の主張を理解し、自らの認識に役立てる。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]表現に即して文章をとらえる。【学びの窓《1》】 ●[⇒b]筆者の主張を文章の構成に沿って要約する。【学びの窓《2》】 ●[⇒c]「二次的な自然」の意味を説明する。【学びの窓《3》】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●自然や社会の現象の背景となっている歴史について考え、歴史を担う主体として自らの関心に沿って意見を発表しようとしている。	(1) アイウエ		(1) アイウエオ	(1) イウエオ	(1) アイウエ		(1) アイウエオ (2) イウ	(1) イ (イ)
	話す・聞く 書く	●[⇒b]小見出しの付け方などを、適切な理由をつけて分かりやすく説明している。								
	読む	●[⇒a]難解な表現の意味を文脈に即して的確に理解している。 ●[⇒b]論理の展開を追いながら、筆者の主張を適切な小見出しを付けて要約している。 ●[⇒c]本文の主張に即して「二次的な自然」が説明できている。								
	知識・理解・技能									
新指導要領に対応するための +α	■+α■ 中学生にはやや難解な(言い回しが硬い)文章を表現に即して読んでいく。 その際、歴史的な問題、産業構造の問題、環境問題、地域の問題、世界的な問題などさまざまな論点に目が開かれるように指導したい。 また、地域の資料集(産業や自然について地方自治体がまとめたものなど)や環境問題などの書籍を併せて読み、【C(2)イ】『論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと』なども指導したい。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 9月～10月 配当授業時数 3時間	教材名	運動会	著者	玉木 正之	配当月	9月～10月				
	単元名	3 未来への問い	文種	評論	配当授業時数	3				
	学習目標	●筆者の主張を理解し、自らの見解を持つ。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]文章の展開に即して段落に分ける。【学びの窓《1》】 ●[⇒b]スポーツ-イベントの本来的な意義と成立条件についての筆者の意見を、要素を明確にしてまとめる。【学びの窓《2》】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●自然や社会の現象の背景となっている歴史について考え、歴史を担う主体として自らの関心に沿って意見を発表しようとしている。								
	話す・聞く 書く				(1) アイエ オ	(1) イウエ オ			(1) アイ エ	(1) イ (ア)イ
	読む	●[⇒a]文脈に即して適切に段落分けをしている。 ●[⇒b]運動会に見られる二つの形態に着目しながら、スポーツ-イベントの意義と成立条件について、要素を的確にまとめている。							(2) イ	
	知識・理解・技能	●[⇒a]意味段落の役割や文章の構成について理解している。								
新指導要領に対応するための +α	■+α■ 運動会の歴史を見ることで、明治から昭和にかけての日本について知り、文化としてのスポーツの本来の姿について考えるのが主たる学習である。身近な事柄から文化の歴史を読み取ることができるのだということに気付かせたい。 主たる学習以外にも、本文中には、以下の①から③の様々な語句があることに注意して読むことで、【伝統…事項(1)イ(イ)】『慣用句・四字熟語などに関する知識をを広げ、和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること』を指導できる。 ①漢語(障害物競走、身体鍛錬発表など) ②英語から翻訳された語句(スポーツ、レクリエーションなど) ③外来語(オリンピック、イベントなど)									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 9月～10月 配当授業時数 7時間	教材名	話す・聞く2 多様な意見の交差——グループ・パネルディスカッション	言語活動	パネルディスカッション	配当月	9月～10月				
	単元名	3 未来への問い			配当授業時数	7				
	学習目標	●さまざまな立場から意見を出し合って、各自の認識を深める話し合いの方法を知る。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]話し合いをする上でのテーマと立場を決める。【活動①】 ●[⇒b]同じ立場に立つ者同士でグループを作り、グループ内で意見を出し合って、説得のための資料を集める。【活動②の《1～2》】 ●[⇒c]同じ立場の他のグループにも協力してもらって、自分たちの主張をまとめる。【活動②の《3》】 ●[⇒d]パネリスト-グループを選出し、パネルディスカッションを行う。【活動②の《4》・③】 ●[⇒e]それぞれのグループでパネルディスカッションを振り返る。《活動④》								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●さまざまな立場から積極的に意見を出し合いながら、自分と異なる意見に学び、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。	(1) アイウエ			(1) アイウエ オ	(1) アイウエ (2) アイ		(1) オ (2) イ	(1) イ (ア)(イ)
	話す・聞く	●[⇒b]互いの共通点や相違点などを聞き分け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ●[⇒c]主張の内容や意図に応じて適切な語句を選択し、話したり聞いたりしている。 ●[⇒d]話し合いの中で出た自分と異なる意見を聞いて、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ●[⇒e]パネリスト、フロア、司会者というそれぞれの役割ごとに観点を決めて、ディスカッションの内容について検討している。								
	書く									
	読む									
知識・理解・技能	●[⇒d]説得力のある言葉を選び、その用い方に注意している。									
新指導要領に対応するための +α	■+α■ 【A(2)ア】『時間や場の条件に合わせてスピーチしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること』 【A(2)イ】『社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと』 などの言語活動を指導することができる。 パネルディスカッションの情報収集する過程では、【C(1)オ】『目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること』や【C(2)イ】『論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと』などを指導したい。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(◎)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査()	★実際のパネルディスカッション(○) ★パネルディスカッションを振り返って(◎)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 9月～10月 配当授業時数 1時間	教材名	文字を見抜く3 点字・指文字 漢字と語を見抜く練習3 漢字のコラム…まとまりとしての漢字学習3	言語事項	○点字 ○指文字 ○声符のまとまり(呉・召)			配当月	9月～10月		
	単元名	3 未来への問い					配当授業時数	1		
	学習目標	●点字・指文字について理解する。								
	学習活動 学習内容	●点字・指文字について知り、使ってみる。								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」			新学習指導要領に示された「内容」			
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●①視覚障害・聴覚障害の人にとっての点字・指文字の役割を知ろうとしている。 ●②手話に関心を持ち、手話を知ろうとしている。								(1) ウ (ア)(イ)
	話す・聞く					(2) エ				(2) ア
	書く									
	読む									
知識・理解・技能	●点字・指文字について理解を深め、せめて点字による案内などを傷つけないようにする態度を身につけている。									
新指導要領に対応するための +α	■+α■ 点字や指文字がなぜ国語の教科書に掲載されているか考え、日本語の「拍」について考えることができる。 【伝統…事項(2)ア】書写に関する事項『身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと』なども指導したい。									
想定される評価方法	授業など行動観察(○) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(○)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 9月～10月 配当授業時数 2時間	教材名	文法の学習3 助詞 文法を考える3 並立の表現	言語事項	○助詞 ○並立の表現	配当月	9月～10月				
	単元名	3 未来への問い	関連	巻末 P275～P280	配当授業時数	2				
	学習目標	●助詞について理解する。								
	学習活動 学習内容	●助詞、助詞の種類について知り、練習問題で確かめる。 また、実際の文章での「だの」「たり」の働きを考える。								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」			新学習指導要領に示された「内容」			
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●助詞について知り、その文法上の性質を書く活動、読む活動に生かそうとしている。				(1) カ				第2学年 (1) イ (イ)
	話す・聞く									
	書く									
	読む									
知識・理解・技能	●助詞についての見方、考え方、知識を身につけている。									
新指導要領に対応するための +α	■移行措置■ 新指導要領の第2学年【伝統…事項(1)イ(ウ)】『文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること』 並びに第2学年【伝統…事項(1)イ(エ)】『助詞や助動詞などの働きに注意すること』は、 この教科書では第3学年「中学校国語 3」P281～289(文の成分)とP270～280(付属語)とに置かれている。 (現行指導要領では第2・第3学年の内容が一括して扱われているため。) そのため平成24年までの移行期間中は、第2学年の文法の学習において、 ①「中学校国語 3」P270～280とP281～289を第2学年で先取りして学習する ②「中学校国語 3」P270～280とP281～289を第2学年で先取りして学習し、第3学年で復習する、 ③第2学年では扱わず、教科書どおりに第3学年で学習する、 などの運用が、学校や地域の現場に応じて必要になる。									
想定される評価方法	授業など行動観察(○) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(○)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 9月～10月 配当授業時数 選択・補充	教材名	〈深める・広げる〉 種をまく人	著者	ポール=フライシュマン 片岡 しのぶ 訳	配当月	9月～10月				
	単元名	3 未来への問い	文種	小説	配当授業時数	選択・補充				
	学習目標	●三人の人物が背負っている社会的背景について考え、主体的な立場から人間の生き方について考える。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]三人の人物の境遇などについてまとめ、最後の行動を起こすに至ったそれぞれの気持ちの変化について考える。【学びの窓《1》】 ●[⇒b]表題の意味や主題を考えて読む。【学びの窓《2》】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語 事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統… 事項]
	関心・意欲・態度	●自然や社会の現象の背景となっている歴史について考え、歴史を担う主体として自らの関心に沿って意見を発言しようとしている。								
	話す・聞く 書く				(1) アイウエ オカ	(1) イウエオ			(1) アイウエ オ	(1) イ (1)
	読む	●[⇒a]人物に即して表現を簡潔に整理し、人物の思いを理解して、その行動を導く動機について考えている。 ●[⇒b]表題の意味や主題を自分なりの立場からとらえている。							(2) アウ	
	知識・理解・技能									
新指導要領に 対応するための +α	■+α■ 読書の関連として、【学びの窓：探究】【学びの窓：振り返り】が設定してある。 短い話なので教科書掲載部分以降の話も含めて、原典の『種をまく人』1冊を読み合い、感想を交流したい。 【C(2)ア】『物語や小説などを読んで批評すること』並びに、 【C(2)ウ】『自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること』を指導できる。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 11月12月 配当授業時数 1時間	教材名	言葉との出会い	著者	学校図書編集委員会	配当月	11~12月				
	単元名	4 今に向かって	文種	解説導入	配当授業時数	1				
	学習目標	●響き合う言葉との出会いを求めて古典を読む意義を理解し、古典を読もうとする構えを作る。								
	学習活動 学習内容	●解説導入文を読んで、言葉と出会うということの意味を理解する。 ●響き合う言葉との出会いの場を求めて古典を読もうとする構えを作る。								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」			新学習指導要領に示された「内容」			
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●古典作品も「出会い」によって生まれ「出会い」によって愛好されてきたことを知り、「出会い」を求めて古典を読もうとする意欲が生まれてきている。			(1) アイウエオ	(1) イウエオ			(1) アイウエオ (2) アウ	(1) ア (ア) イ (ア)(イ)
	話す・聞く									
	書く									
	読む	●解説導入文を読んで、「出会い」の意味を深く理解している。								
知識・理解・技能										
新指導要領に対応するための +α	■+α■ この教科書の古典学習は、テキストと対話する能動的な読み手を育てることを目指している。 これは現代文を読む際の学習、つまり新指導要領の『C読むこと』の指導に通じている。 その事を意識化したい(詳しくは指導書)。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 11月12月 配当授業時数 4時間	教材名	歌の源流へ——万葉集・古今和歌集・新古今和歌集	著者	持統天皇 など	配当月	11～12月				
	単元名	4 今に向かって	文種	古文	配当授業時数	4				
	学習目標	●「万葉・古今・新古今」の歌を繰り返し音読して、それぞれの歌に何が詠まれているかを読み取ると共に、どんな調べ、言葉、イメージにひかれたかについて話し合う。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]言葉の続き方に注意して、歌を繰り返し音読する。【学びの窓《1》】 ●[⇒b]それぞれの歌が、どんな情景、人間関係、気持ちなどを詠んでいるかを読み解く。【学びの窓《2》】 ●[⇒c]「万葉集」の中から好きな歌を一首選び、歌の生まれた場や歌に詠まれている情景や心情を説明する文章を書く。【学びの窓《3》】 ●[⇒d]自分の好きな歌を選び、どのような「響き合う言葉との出会い」ができたかを発表し合う。【言葉との出会い：解説導入】								
	評価		現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」					
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●「出会い」を求めて古典和歌の作品を読もうとしている。	(1) アイウエ	(1) アイウエオ	(1) アイウエオ	(1) アイウエオ	(1) アイウエ	(1) アイウエ	(1) アイウエオ	(1) ア (ア)(イ)
	話す・聞く	●[⇒a]言葉の続き方に注意し、歌の調べを生かして音・朗読している。 ●[⇒d]古典和歌の作品とのどのような「出会い」があったかを発表している。								
	書く	●[⇒c]「万葉集」の中の一首について、歌の生まれた場や歌に詠まれている情景、心情などを説明する文章を、読み手によく分かるように書いている。								
	読む	●[⇒b]それぞれの歌が、どんな情景、人間関係、気持ちなどを詠んでいるかを表現に即して読み解いている。								
知識・理解・技能	●「古典和歌の表現法」(P60)を参考に、それぞれの歌の表現法を理解している。									
新指導要領に対応するための +α	<p>■+α■ この教科書の古典学習は、テキストと対話する能動的な読み手を育てることを目指している。これは現代文を読む際の学習、つまり新指導要領の『C読むこと』の指導に通じている。その事を意識化したい(詳しくは指導書)。</p> <p>【伝統…事項(1)ア(ア)】のような『古典を読み、その世界に親しむこと』も指導するが、現代文を読むように【C(1)エ】『文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと』が望まれる。 また【C(1)ウ】『文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること』、【C(2)ア】『物語や小説などを読んで、批評すること』なども指導したい。</p> <p>なお、【学びの窓《3》】などの活動を通じて、新しく設けられた言語活動【伝統…事項(1)ア(イ)】『古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと』が指導できる。</p>									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△) ★書いた文章(○)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 11、12月 配当授業時数 3時間	教材名	漢詩	著者	「春望」 「元二の安西に使ひするを送る」 「静夜の思ひ」	配当月	11～12月				
	単元名	4 今に向かって	文種	漢文	配当授業時数	3				
	学習目標	●日本人の心に大きな影響を与え、日本文化の一部ともなっている漢詩(唐詩)の代表的な作品を読んで、漢詩独特のおもしろさに触れる。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]「おくのほそ道」の「平泉」にも出てくる杜甫の「春望」を繰り返し音読して、漢詩の調子に慣れる。【学びの窓①】 ●[⇒b]「春望」を読解し、その構成をとらえる。 ●[⇒c]王維と李白の詩についても、「春望」と同様に学ぶ。 ●[⇒d]次の点のどれかに着目して、三つの漢詩について短い文章をまとめる。【学びの窓②】 ・情景、 ・人間関係、 ・気持ち ●[⇒e]情景や作者の気持ちを心に描きながら、繰り返し音読する。【学びの窓③】 ●[⇒f]「おくのほそ道」の「平泉」(「枕草子」を学ぶ場合は「香炉峰の雪」も)を参照し、漢詩の影響を確かめる。【学びの窓:探究】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●日本人に大きな影響を与え、日本文化の一部ともなっている漢詩に興味を持ち、そのよさに触れようとして意欲的に学んでいる。	(1) アイウエ	(1) アイウエオ	(1) アイウエオ	(1) アイウエオ	(1) アイウエ	(1) アイウエ	(1) アイウエオ	(1) ア (ア)(イ)
	話す・聞く	●[⇒a/⇒e]漢詩の調子に慣れようとして、情景や作者の心情を心に描きながら、繰り返し音読している。								
	書く	●[⇒d]それぞれの漢詩について、情景、人間関係、気持ちのいずれかの観点から、的確で短い文章を書いている。								
	読む	●[⇒b/⇒c]それぞれの漢詩の構成を読み取っている。 ●[⇒d]それぞれの漢詩について、原文の言葉を押さえながら、情景、人間関係、気持ちなどを読み取っている。								
知識・理解・技能	●[⇒b/⇒c]漢詩の構成について理解している。 ●[⇒a]初歩的な訓読ができています。									
新指導要領に対応するための +α	■+α■ この教科書の古典学習は、テキストと対話する能動的な読み手を育てることを目指している。 これは現代文を読む際の学習、つまり新指導要領の『C読むこと』の指導に通じている。その事を意識化したい(詳しくは指導書)。 【伝統…事項(1)ア(ア)】のような『古典を読み、その世界に親しむこと』も指導するが、現代文を読むように【C(1)エ】『文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと』が望まれる。 また【C(1)ウ】『文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること』、【C(2)ア】『物語や小説などを読んで、批評すること』なども指導したい。 【学びの窓:探究】の言語活動では、漢詩が日本の古典に与えた影響を確認する。 また、その学習を通じて中国の文化が日本に受容されてきた過程に思いを及ぼせたい。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

教材名	言葉が見た風景——おくのほそ道	著者	松尾 芭蕉	配当月	11~12月				
単元名	4 今に向かって	文種	古文	配当授業時数	4				
学習目標	●「おくのほそ道」において、芭蕉がどのような観点で風景をとらえ表現しているかを読み取り、その観点と言葉が伝統文化を継承し発展させたものであることに気づく。								
学習活動 学習内容	●[⇒a]「おくのほそ道」の旅について、その足跡を地図でたどり、概要を理解する。【学びの窓：探究】 ●[⇒b]「旅立ち」について、芭蕉はどのような伝統文化の中に自分を位置づけているか、また、旅に出たいという気持ちをどのように表現しているかを読み取り、発表し合う。【学びの窓《1》】 ●[⇒c]「平泉」について、文章の展開をとらえ、「叢」という語に着目して、前半部から後半部へどのように発展しながら展開しているかをとらえる。【学びの窓《2》】 ●[⇒d] 芭蕉は、平泉を自分の敬愛する伝統文化の観点でとらえ表現しつつ、連句という新時代の観点と表現法でとらえ直して表現していることを理解する。【学びの窓《2》の③・《3》】 ●[⇒e]「おくのほそ道」の冒頭と結びが対応していること、また、そこに芭蕉の「人生は旅」という人生観が表現されていることに気づく。【学びの窓《3》】								
評価		現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」					
評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	〔言語事項〕	A話・聞	B書く	C読む	〔伝統…事項〕
関心・意欲・態度	●「おくのほそ道」において、芭蕉がどのような観点で風景をとらえ、表現しているかを読み取ろうとしている。 ●芭蕉の観点と言葉が伝統文化を継承し発展させたものであることに気づき、それをきっかけにして自分たちの表現やその観点についても改めて見つめ直そうとしている。	(1) アイウエ	(1) イウエ	(1) アイウエ オ	(1) アイウエ オ	(1) アイウエ	(1) アイウエ	(1) アイウエ オ	(1) ア イ ア(イ)
話す・聞く	●原文の理解に基づいて音・朗読している。【学びの窓《4》】 ●[⇒b]読み取ったことを友達によく分かるように発表している。					(2) ア	(2) ア	(2) ア	イ ア(イ)
書く	●[⇒c]「平泉」の文章展開を見出しを付けて整理している。								
読む	●[⇒b]「旅立ち」について、芭蕉はどのような伝統文化の中に自分を位置づけているか、また、旅に出たいという気持ちをどのように表現しているかを読み取っている。 ●[⇒c]「平泉」について、文章の展開をとらえ、前半部から後半部への展開に関して、「叢」という語に着目し、どのように発展しているかをとらえている。 ●[⇒d] 芭蕉は、平泉を自分の敬愛する伝統文化の観点でとらえ表現しつつ、連句という新時代の観点と表現法でとらえ直して表現していることを理解している。 ●[⇒e]「おくのほそ道」の冒頭と結びが対応していること、また、そこに芭蕉の「人生は旅」という人生観が表現されていることに気づいている。								
知識・理解・技能									
新指導要領に 対応するための +α	■+α■ この教科書の古典学習は、テキストと対話する能動的な読み手を育てることを目指している。 これは現代文を読む際の学習、つまり新指導要領の『C読むこと』の指導に通じている。その事を意識化したい(詳しくは指導書)。 【伝統…事項(1)ア(ア)】のような『古典を読み、その世界に親しむこと』も指導するが、現代文を読むように【C(1)エ】『文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと』が望まれる。 また【C(1)ウ】『文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること』、【C(2)ア】『物語や小説などを読んで、批評すること』なども指導したい。								
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)					

配当月 11~12月
配当授業時数 4時間

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 11月12月 配当授業時数 7時間	教材名	書く2 あのときかもしれない——エッセイを書く	言語活動	エッセイ	配当月	11~12月				
	単元名	4 今に向かって			配当授業時数	7				
	学習目標	●自分のこれまでを振り返り、人とかかわりの中で一歩大人に近づいたと思った経験を振り返って文章(エッセイ)にまとめる。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]これまでの中学校生活を振り返り、自分にとって忘れられない出来事とそれにかかわった人を中心にして、簡単な年表を作成する。【活動①】 ●[⇒b]思い出したことを短い文に書く。【活動②の《1》】 ●[⇒c]新たに気づいたこと、そのきっかけ、自分にとっての意味という三つの項目で、思い出したことを整理する。【活動②の《2》】 ●[⇒d]文章の組み立てを考えてまとめる。【活動②の《3》《4》】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●中学校での過去の経験を振り返り、人とかかわりの中で自分が成長した時のことを思い出して、それを文章の形にまとめようとしている。								
	話す・聞く									
	書く	●[⇒a]自分にとって忘れられない出来事とそれにかかわった人を中心に、年表を作っている。 ●[⇒b]思い出したことを「～はあのときかもしれない」という形で的確に書いている。 ●[⇒c]思い出した経験とそれに対する自分の意味づけがうまくつながるように、構成を考えている。 ●[⇒d]書き出し、順序、文末表現を工夫しながら、「あの時」の経験と自分にとっての意味を考え、分かりやすく書いている。		(1) アイウエオ		(1) イウエオ		(1) アイウエ		(1) イ (ア)(イ)
	読む									
知識・理解・技能	●[⇒d]文の成分の順序や照応、組み立てなどを考えている。									
新指導要領に対応するための+α	■+α■ 【B(1)ア】『社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。』を指導する。 取材は他者に対して行うだけでなく、自分自身への取材を繰り返すこと(つまり内省を深めること)もあるということに留意したい。 また[⇒c/⇒d]『文章の形態の選択』、[⇒c/⇒d]『適切な構成の工夫』なども指導する。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(◎)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査()	ワークブックなど補助教材() ★制作した作品(エッセイ◎)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 11~12月 配当授業時数 1時間	教材名	文字を見抜く4 平仮名と片仮名 漢字のコラム…まとまりとしての漢字学習4	言語事項	○平仮名 ○片仮名 ○声符のまとまり(是・垂)				配当月	11~12月		
	単元名	4 今に向かって						配当授業時数	1		
	学習目標	●平仮名・片仮名について理解する。									
	学習活動 学習内容	●平仮名・片仮名の用いられている資料の一部を読んで平仮名・片仮名についての理解を深め、一覧表で現行の平仮名・片仮名のもとになった漢字を確かめる。									
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」				新学習指導要領に示された「内容」			
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]	
	関心・意欲・態度	●平仮名・片仮名の役割を考え、使いこなそうとしている。								(1) イ (ア)	
	話す・聞く 書く 読む					(2) アイ				ウ (ア)(イ)	
	知識・理解・技能	●平仮名・片仮名を使いこなしている。								(2) ア	
	新指導要領に対応するための +α	■+α■ 片仮名と平仮名の使い方の違いは、そもそもの字の成り立ちによることを知る。 【伝統…事項(1)イ(ア)】『時間の経過による言葉の変化』=「時間の経過による文字の変化」にも気づきたい。 このような成り立ちを押さえたうえで、【伝統…事項(2)ア】書写に関する事項『身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと』なども指導したい。									
想定される評価方法	授業など行動観察(○) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(○)							

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 11 ～ 12月 配当授業時数 2時間	教材名	文法の学習4 文・文章 文法を考える4 単文・重文・複文	言語事項	○文・文章 ○単文・重文・複文	配当月	11～12月				
	単元名	4 今に向かって			配当授業時数	2				
	学習目標	●文・文章について理解する。								
	学習活動 学習内容	●文の組み立て、文の成分、文の成分の種類、文の成分の並べ方、複雑な文の構造、文末の表現、文章の構造について知り、練習問題、実際の文章で確かめる。								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」			新学習指導要領に示された「内容」			
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●文・文章について知り、その文法上の性質を書く活動、読む活動に生かそうとしている。				(1) オ				第2学年 (1) イ (ウ)
	話す・聞く									
	書く									
	読む									
知識・理解・技能	●文・文章についての見方、考え方、知識を身につけている。									
新指導要領に対応するための +α	<p>■移行措置■ 新指導要領の第2学年【伝統…事項(1)イ(ウ)】『文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること』並びに第2学年【伝統…事項(1)イ(エ)】『助詞や助動詞などの働きに注意すること』は、この教科書では第3学年「中学校国語 3」P281～289(文の成分)とP270～280(付属語)とに置かれている。(現行指導要領では第2・第3学年の内容が一括して扱われているため。)</p> <p>そのため平成24年までの移行期間中は、第2学年の文法の学習において、 ①「中学校国語 3」P270～280とP281～289を第2学年で先取りして学習する ②「中学校国語 3」P270～280とP281～289を第2学年で先取りして学習し、第3学年で復習する、 ③第2学年では扱わず、教科書どおりに第3学年で学習する、 などの運用が、学校や地域の現場に応じて必要になる。</p>									
想定される評価方法	授業など行動観察(○) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(○)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当授業時数 11512月 選択・補充	教材名	〈深める・広げる〉 発見する言葉——枕草子	著者	清少納言	配当月	11～12月				
	単元名	4 今に向かって	文種	古文	配当授業時数	選択・補充				
	学習目標	●「枕草子」の中から三つの段を選んで読み、それぞれの段で、どのような言葉によって何が発見されているかを読み取ると共に、自分なりに言葉を発見する。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]「春はあけぼの」について、四季の味わいをどのような感覚で感じ取り、それをどのような文体で表現しているかを読み取る。【学びの窓《1》の①】 ●[⇒b]繰り返し音読して暗唱する。【学びの窓《1》の②】 ●[⇒c]「うつくしきもの」について、そこに取り上げられているものの共通点を考える。【学びの窓《2》の①】 ●[⇒d]「うつくし」は現代語と比べてどのように違うかを考える。【学びの窓《2》の②】 ●[⇒e]「香炉峰の雪」について、清少納言と中宮のやりとりを理解し、そのようなやりとりを書き留めた理由を想像して話し合う。【学びの窓《3》】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●古典の言葉とその表現に興味を持っている。 ●「春はあけぼの」では、何がどのような言葉でとらえられているかを読み取ると共に、自分たちの感じ方や書き表し方と比べて考えようとしている。 ●古典に描かれている世界を想像しながら読み、「香炉峰の雪」に描かれたコミュニケーションのあり方について考えようとしている。	(1) アイウエ		(1) アイウエ オ	(1) アイウエ オ	(1) アイウエ		(1) アイウエ オ	(1) ア (ア)(イ) イ (ア)(イ)
	話す・聞く	●[⇒e]考えたり想像したりしたことを出し合い、話し合いによって考えを深めている。							(2) ア	
	書く									
	読む	●[⇒a]「春はあけぼの」について、四季の味わいをどのような感覚で感じ取り、それをどのような文体で表現しているかを読み取っている。 ●[⇒b]「春はあけぼの」を暗唱している。 ●[⇒c]「うつくしきもの」について、そこに取り上げられているものの共通点をとらえている。 ●[⇒e]「香炉峰の雪」について、清少納言と中宮のコミュニケーションのおもしろさを理解している。								
知識・理解・技能	●[⇒d]古語のいくつかについて、現代語とは異なる意味・用法を理解している。									
新指導要領に 対応するための +α	■+α■ この教科書の古典学習は、テキストと対話する能動的な読み手を育てることを目指している。 これは現代文を読む際の学習、つまり新指導要領の『C読むこと』の指導に通じている。その事を意識化したい(詳しくは指導書)。 【伝統…事項(1)ア(ア)】のような『古典を読み、その世界に親しむこと』も指導するが、現代文を読むように【C(1)エ】『文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと』が望まれる。 特に、【学びの窓《3》】のような課題については、文化(教養)とは何か、コミュニケーションのあり方はどうか、などさまざまなことが考えられる。 また【C(2)ア】『物語や小説などを読んで、批評すること』なども指導したい。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 1月～2月 配当授業時数 5時間	教材名	故郷	著者	魯迅 竹内 好 訳	配当月	1月～2月				
	単元名	5 世代を超えて	文種	小説	配当授業時数	5				
	学習目標	●作者が伝えようとしているメッセージを受け取り、それを自分とのかかわりで考える。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]「わたし」や村の人々の変化を理解する。【学びの窓《1》】 ●[⇒b]「わたし」と閩土の違いを理解し、自分なりに受け取ったメッセージを、「わたし」の希望や願いに即して発表し合う。【学びの窓《2》《3》】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語 事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統… 事項]
	関心・意欲・態度	●異なる時代の経験を背景にする作品や文章から、未来の時代を生きる者へのメッセージを受け取り、それを自分のものとして受け止めようとしている。	(1) アイウエ		(1) アイウエ オ	(1) イウエオ	(1) アイウエ		(1) アイウエ オ	(1) イ (1)
	話す・聞く	●[⇒b]本文のどこから受け取ったメッセージかを説明しながら、発表している。								
	書く									
	読む	●[⇒a]物語の展開に即して、登場人物の変化を的確に理解している。 ●[⇒b]「わたし」と閩土との関係で時間と共に失われたものと対比させながら、作者が次世代に期待しているものを考えている。								
知識・理解・技能										
新指導要領に 対応するための +α	■+α■ 関心・意欲・態度に「異なる時代の経験を背景にする作品や文章から、未来の時代を生きる者へのメッセージを受け取り、それを自分のものとして受け止めようとしている」を挙げた。 [⇒a]では、新指導要領【C(1)イ】『文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること』を指導する。 [⇒b]では、【C(1)エ】『文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと』の指導をする。 中学校の文学の学習の最終到達点となるよう、一人一人が得るもののある学習にしたい。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 1月～2月 配当授業時数 1時間	教材名	文字を見抜く5 日本語で使われる文字 漢字と語を見抜く練習5	言語 事項	○文字の種類 ○記号 ○声符のまとめ(若・兆)		配当月	1月～2月			
	単元名	5 世代を超えて				配当授業時数	1			
	学習目標	●日本語で使われる文字、主な記号について理解する。								
	学習活動 学習内容	●文字の種類、文字と共に用いられる記号、書体について知り、文字の使い分けと書き方の工夫について考える。								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語 事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統… 事項]
	関心・意欲・態度	●漢字・平仮名・片仮名・ローマ字などを的確に使い分けようとしている。								(1) イ (ア) ウ (ア)(イ)
	話す・聞く 書く 読む					(2) アイ				(2) ア
	知識・理解・技能	●漢字・平仮名・片仮名・ローマ字などを的確に使い分ける態度を身につけている。								
	新指導要領に 対応するための +α	■+α■ 情報化やデジタル化社会に対応した文字の学習である。 身の回りにある「文字」そのものについて学ぶことができる。 フォントの多様性や記号の使用によって、文字の世界が豊かになっていることについて認識させたい。 【伝統…事項(2)ア】書写に関する事項『身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと』なども指導できる。								
想定される評価方法	授業など行動観察(○) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(○)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 1月～2月 配当授業時数 1時間	教材名	言葉の世界 敬語	著者	金田 弘	配当月	1月～2月				
	単元名	5 世代を超えて	言語事項	敬語	配当授業時数	1				
	学習目標	●敬語についての理解を深め、言語生活の中で適切に使う力をつける。								
	学習活動 学習内容									
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●敬語についての興味を深め、自らの言語生活の中で適切に使おうとしている。								
	話す・聞く									
	書く					(1) キ				(1) イ (ア)
	読む									
知識・理解・技能	●尊敬語、謙譲語、丁寧語の意味と使い分けについて、言語生活の場面に即して理解している。									
新指導要領に対応するための +α	■移行措置■ 新指導要領では「敬語」は、 ・第2学年【伝統…事項(1)イ(ア)】『敬語の働きなどについて理解すること』 ・第3学年【伝統…事項(1)イ(ア)】『敬語を社会の中で適切に使うこと』というように、2学年にわたって示されている。 そのため平成24年度までの移行期間中は、 ①この教材を第2学年で先行して学習する、 ②この教材を第2学年で先行して学習し、第3学年では復習する、 ③第2学年では「書く2 手紙を書く」などで「敬語」を指導し、この教材は教科書どおり第3学年で学習する、 などの運用が、学校や地域の現場に応じて必要になる。									
想定される評価方法	授業など行動観察(○) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(○)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 1月～2月 配当授業時数 選択・補充	教材名	〈深める・広げる〉 パール-ハーバーの授業	著者	猪口 邦子	配当月	1月～2月				
	単元名	5 世代を超えて	文種	随想	配当授業時数	選択・補充				
	学習目標	●筆者の経験と、そこから得たものを読み取り、自らの経験を振り返る。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a]「わたし」の置かれていた状況を共感的に理解する。【学びの窓《1》】 ●[⇒b]クラスの子の立場に立った場合の「わたし」に対する見方をつかむ。【学びの窓《2》】 ●[⇒c]パール-ハーバーの授業を通じて筆者が発見した二つの自分とは何かを説明する。【学びの窓《3》】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語 事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統… 事項]
	関心・意欲・態度	●異なる時代の経験を背景にする作品や文章から、未来の時代を生きる者へのメッセージを受け取り、それを自分のものとして受け止めようとしている。								
	話す・聞く				(1) アイウエ オ	(1) イウエオ			(1) アイウエ オ	(1) イ (1)
	書く								(2) アイウ	
	読む	●[⇒a]文脈に即して、筆者の置かれていた状況を的確に理解し、説明している。 ●[⇒b]異なる立場から筆者を見ることができる。 ●[⇒c]筆者の心の動きを押さえた上で、子供としての自分と未来に向けての自分という二つの側面での発見を、分かりやすく説明している。								
知識・理解・技能										
新指導要領に 対応するための +α	■+α■ 文種は随想であり、説明的文章としても文学的文章としても学ぶことができる文章である。 まず[⇒a]のように共感的に読み、次に[⇒b]のように異なる立場から筆者を見ることで、文章を読む際の視点の違いを踏まえた深い理解に導きたい。 【C(1)ウ】『文章を読み比べるなどして(中略)評価すること』とあるが、同じ文章を視点を変えて読むことも一種の比較読みになりうるので、指導したい。 本文中の「国際関係の複雑なからみ合い」に着目すると、【C(2)イ】『論説や報道に盛り込まれた情報を比較して読むこと』(本文ならば、アメリカの教科書と先生の授業の違いなど)を指導することができる。 なお、読書の関連として、【学びの窓:振り返り】が設定してある。【C(2)ウ】『自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること』を指導できる。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 1月～2月 配当授業時数 5時間	教材名	情報と表現 情報を自分のものとするために ——文体	言語活動	情報と文体	配当月	1月～2月				
	単元名	5 世代を超えて			配当授業時数	5				
	学習目標	●さまざまなメディアが発信する情報を自分のものにするために、情報を発信する人の言葉の使い方や工夫、その効果について知る。								
	学習活動 学習内容	●[⇒a] 同じ内容について別種の文体で書かれた四つの文章を比較し、それぞれの文章の書き手の工夫について考える。【活動①・②】 ●[⇒b] 新聞やインターネット、広告の中から情報を伝える文章を選ぶ。【活動③の《1》】 ●[⇒c] その文章で用いられている言葉の工夫について考える。【活動③の《2》】 ●[⇒d] 選んだ文章を違う文体で書き換える。【活動③の《3》】 ●[⇒e] 書き換えた文章ともとの文章を比べ、その違いについて考えたことを発表し話し合う。【活動③の《4》】 ●[⇒f] 言葉の工夫によって情報の伝わり方が違って行くことについて意見をまとめ、友達と話し合う。【活動④】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●情報を発信する人の言葉の工夫や使い方に関心を持ち、それによって情報の伝わり方が違って行くことに気づき、さまざまなメディアの発信する情報を自分のものとしてとらえようとする。								
	話す・聞く	●[⇒a/⇒e/⇒f] 友達の意見と比較して自分の考えをまとめている。 ●[⇒a/⇒e/⇒f] 比較して気づいたことが的確に伝わるように、話の組み立てを工夫している。 ●[⇒a/⇒e/⇒f] 自分が考えた内容を明確に話したり、相手の話を的確に聞き取ったりしている。	(1) アイウエ	(1) アイウエ オカ	(1) アイウエ オ	(1) イウエオ	(1) アイウエ	(1) アイウエ オ	(1) アイウエ オ	(1) イ (ア)(イ)
	書く	●[⇒a] 文体の違う文章を比較して、それぞれの表現様式や文章の展開、文の成分の順序などを考え、書き手の工夫に気づいている。 ●[⇒b/⇒c] 新聞やインターネット、広告など、さまざまな情報手段を通して得たことの中から課題を見つけている。 ●[⇒d/⇒e/⇒f] もとの文章とは違う文体で書き換えることによって、情報の伝わり方が違って行くことに気づいている。								
	読む	●[⇒a] 文体の違う文章を比較して、それぞれの表現様式や文章の展開、文の成分の順序などを考えている。								
知識・理解・技能	●[⇒f] 文章にはさまざまな文体があり、それぞれに異なった効果があるということを認識している。									
新指導要領に 対応するための +α	■+α■ メディア・リテラシーを考える。 世の中にあふれるさまざまな文字情報にはそれぞれそれらしい「文体」があることに意識的になる。 さらにその「文体」によって情報の伝わり方が変わることを知る。 【B(1)エ】『論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価し』たり、【C(1)ウ】『文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること』 など、実際に文章を書き換えることで文章を『評価する』姿勢を獲得できるよう指導したい。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(◎)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査()	★制作した作品(文体例◎) ★文体について気づいたこと(レポート○)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 2月～3月 配当授業時数 7時間	教材名	①ディズニーランドという聖地 ②言葉の共有	著者	①能登路 雅子 ②岡本 夏木	配当月	2月～3月				
	単元名	総合 現代に生きる 明日に向かって	文種	①評論 ②随想	配当授業時数	7				
	学習目標	●二つの文章を読んで、社会や人生についての認識を深める。 ●スピーチや作文を通して、自分の卒業というものをより自覚的に考える。								
	学習活動 学習内容	●【⇒a】ディズニーランドを取り上げた評論を読んで、自分たちの文明社会の状況について理解を深める。【学びの窓:考える／話し合う】 ●【⇒b】卒業を題材にした随想を読んで、「よりよく生きるために」という思いを言葉に託して表現する。【学びの窓:スピーチする／書く】 ●【⇒c】「現代に生きる」というタイトルで自分の好きな形式で文章を書き、文集にまとめる。【学びを広げる】								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語 事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統… 事項]
	関心・意欲・態度	●社会や人生についての認識を深め、自分の卒業というものを自覚的に考えようとしている。	(1) アイウエ	(1) アイウエ オ	(1) アイウエ オ	(1) アイウエ オ	(1) アイウエ	(1) アイウエ	(1) アイウエ オ	(1) イ (ア)(イ)
	話す・聞く	●【⇒b】スピーチに意欲を持って取り組んでいる。								
	書く	●【⇒b/⇒c】作文に意欲を持って取り組んでいる。								
	読む	●【⇒a】文明の特質を論じた評論を自分なりにおもしろく読むことができる。 ●【⇒b】ある少年の卒業を語った随想を心豊かに読むことができる。								
知識・理解・技能										
新指導要領に 対応するための +α	■+α■ 総合的に言語活動を学習する。 3領域1事項のほぼすべてを、相互に関連させて有機的に学習させたい。 卒業に向けて「卒業文集」を想定した活動を用意したが、入学試験など授業数が確保しにくい時は文章の読解だけにすることもできる。 評論文では【C(2)イ】『論説や報道に盛り込まれた情報を比較して読むこと』を指導することができる。 随想では【C(1)エ】『文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと』の指導をすることができる。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(◎)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査()	★スピーチ(○) ★制作した作品(レポート/文集◎)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

配当月 2月～3月 配当授業時数 1時間	教材名	汲む ―Y・Yに―	著者	茨木 のり子	配当月	2月～3月				
	単元名	総合 現代に生きる 明日に向かって	文種	詩	配当授業時数	1				
	学習目標	●詩を読んで、大人になっても失ってはならないものに気づく。								
	学習活動 学習内容	●大人になるということをどのように感じているか発表する。 ●詩を読んで改めて感じたことや考えたことを発表する。								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」		新学習指導要領に示された「内容」				
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語 事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統… 事項]
	関心・意欲・態度	●詩を読むよさを改めて実感し、これからも進んで詩を読んでいこうとしている。	(1) アイウエ		(1) アイウエ オ	(1) イウエオ	(1) アイウエ		(1) アイウエ オ (2) アウ	(1) イ (1)
	話す・聞く	●自分の感じたことや考えたことを、率直かつ明瞭に発表している。								
	書く									
	読む									
知識・理解・技能	●詩を自分へのメッセージとして読み取っている。									
新指導要領に 対応するための +α	■+α■ 中学校の国語学習の最後に詩を置いた。 特に【学びの窓】は設定していないので教室によって自由に取り上げたい。 「関心・意欲・態度」には「詩を読むよさを改めて実感し、これからも進んで詩を読んでいこうとしている」と挙げたが、【C(2)ウ】『自分の読書生活を振り返り、本の 選び方や読み方について考えること』を指導したい。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

通年で随時	教材名	三年生の語句・語彙の学習	言語事項	○文体 ○文章語 ○専門語 ○単純語／合成語 ○造語成分 ○接辞 ○接頭／接尾 ○複合語／派生語／語根 ○連濁				配当月 配当授業時数	通年で随時	
	単元名	巻末 言語の学習								
	学習目標	●場面や分野の違いによる語の使い分け、造語作用による語の構成について系統的に理解し、語を適切に使用できる力をつける。								
	学習活動 学習内容									
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」			新学習指導要領に示された「内容」			
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統…事項]
	関心・意欲・態度	●場面や分野の違いによる語の使い分け、造語作用による語の構成について興味を持って学び、自らの言語生活に生かそうとしている。				(1) イウエ				(1) イ (ア)(イ)
	話す・聞く									
	書く									
	読む									
知識・理解・技能	●場面や分野の違いによる語の使い分け、造語作用による語の構成について系統的に理解している。									
新指導要領に対応するための +α	■移行措置■ 新指導要領では、第3学年に「慣用句」「和語・漢語・外来語」を特に取り上げることになっている。 しかし、この教科書では第1学年の「一年生の語句・語彙の学習」で、特に「慣用句」「和語・漢語・外来語」を取り上げている(「中学校国語 1」P282～P289)。 「慣用句」や「和語・漢語・外来語」の学習は、古典や漢文の学習、文学や説明的文章の学習で、押さえることが可能なので、特に取り上げる必要はないが、 平成24年度までの移行期間中は、 ①「中学校国語 1」のP282～P289を第3学年に先送りする、 ②「中学校国語 1」のP282～P289を教科書どおり第1学年で学習し、第3学年では既習として省略する、 ③「中学校国語 1」のP282～P289を教科書どおり第1学年で学習し、第3学年で復習する、 などの運用が、学校や地域の現場に応じて必要になる。									
想定される評価方法	授業など行動観察(○) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(○)						

学校図書「中学校国語 3」指導計画

通年で随時 配当授業時数 選択・補充	教材名	夕空晴れて	著者	伊集院 静	配当月	通年で随時				
	単元名	読書	文種	小説	配当授業時数	選択・補充				
	学習目標	●読書に親しみ、進んで読もうとする姿勢を身につける。								
	学習活動 学習内容	●独力で読み、自由に作品に取り組む。								
	評価			現行学習指導要領に示された「内容」			新学習指導要領に示された「内容」			
	評価の観点	評価規準	A話・聞	B書く	C読む	[言語 事項]	A話・聞	B書く	C読む	[伝統… 事項]
	関心・意欲・態度	●意欲的、主体的に作品に取り組もうとしている。			(1) アイウエ オ				(1) アイウエ オ	
	話す・聞く								(2) アウ	
	書く									
	読む									
知識・理解・技能										
新指導要領に 対応するための +α	■+α■ 各人が【C(1)エ】『文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと』など指導し、各人の感想の交流を豊かなものになりたい。 また読書単元として設定しているので、【C(2)ウ】『自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること』を併せて考えさせたい。									
想定される評価方法	授業など行動観察(◎) 発表など言語活動(○)	ノート(○) プリントやワークシート(○)	小テスト(漢字○) 定期考査(○)	ワークブックなど補助教材(△)						